

夏空に響く三線、太鼓の音色、 勇壮な青年達の舞いが うるまの夏を彩る



夏

の暑い太陽が西の空に沈み、夕闇に包まれる頃、どこからともなく聞こえてくる三線や歌、太鼓、指笛、そして青年達の「エイサー、エイサー スイサーサー…」

老人達は、青春時代の自分と重ね合わせ、子ども達は、将来の自分を思い浮かべ青年達の踊りに目を輝かせる。

祖先の霊を供養するとともに無病息災、家内安全を祈願して各家庭や地域を練り歩く。

夏の夜空に鳴り響くエイサー太鼓は、舞う者、観る者、すべての人の血を熱くたぎらせる。

1603年の琉球の時代に浄土真宗が沖縄に伝わり、葬儀や法事で念仏歌をうたったニンブチャー（念仏者）達が原型ともいわれ、時代が移り変わるにつれ形を変えてきた。

夏本番。青年達の熱い鼓動がうるまの空に響き渡る。